



あけぼのを教示する精神科医療

David H. Clark 著・鈴木 淳訳

「精神科医の役割 管理療法」

“管理療法”とはすでにわが国にも以前に伝わっていた言葉であるといわれているが、耳新しく聞かれる方々も決して少なくないと思われる。管理療法とは「管理的諸技法を用いて精神病院の患者を治療する技術であり、または、治療共同社会のなかで医師の真の役割を達成する技術である」と著者の Clark 氏はいわれる。

各時代を経て精神科医療はその苦難の足跡を残してきているが、ピネルの改革に次いで、さらに現代化した新しい数々の方法は、各地病院において試みられ、たゆまぬ歩みが続けて現在に至っている。本書はそれらの戦いの真剣なとりくみあいの中に、精神科医療の生み出した貴重な精神力動の原理に基づく、唯一の実際の指導書であると思われる。原著者 Clark 氏は今年 3 月に訪日されており、日本の精神医学界の現状を

WHO 派遣顧問医の立場から視察されておられるし、訳者の鈴木淳先生は原著者にも直接面接されてさらに深い理解をもって訳を完遂されておられる。

本書は 162 ページからなる中版の手頃の本であるが、この書に含まれている内容は現在の日本にとって計りしれない貴重価値でみなぎっている。第 1 章から 8 章までどの章も一語ももらさず消化したいという意欲にかきたてられるのは単に豊かな価値ある内容というだけでなく、いく世紀にわたって歴史の探しつづけてきたものをここに教示されているためではないだろうか。

本書はどこの原理に対する概念を明らかにまとめあげられた書を他に見出せない。むずかしい内容を取りあげながら、非常に具体的に訳に対する抵抗感も珍らしく少ないのは読者にとって何よりもありがたいことで

ある。「精神医学を神経病理や生化学に基礎づけられた器質的な専門領域とみなす」地点より、精神力動の理解に関心を示してその効果を日本の国のものにする時代は、すでにおとづれているのではなかろうかと強く思われる。そんな意味で、この書の日本語版出版がわが国にとっていかに期待されていた書であったか痛感し、改めて訳の労をおとり下さった鈴木淳先生をはじめ関係者の諸先生に心から感謝し、この書のもたらすあけぼのたるべきものを、固く信ずる者である。

本書は元来医師のために書かれたものであるが、精神科医療関係者にとってもぜひ一読ご研究されることを強くおすすめしたいと思う。

(A 5, 162 ページ, 1300 円, 医学書院)

(九州リハビリテーション大学講師 矢谷令子)